



恵明新聞

No.116

令和5年12月1日発行

皆様良いお年をお迎えください

引き締まる冷たい空気の中、青く澄み切った空を背景に雪をいただいた霊峰富士を眺めることができ季節となりました。

一年を振り返ってみれば、昨年から続くウクライナ紛争、ガザへ向けてのイスラエル軍の進撃と戦争のニュースが途切れません。戦いは憎しみを生み、新たな戦いが繰り返されます。破壊されたがれきの中で子どもや戦いに関係のない市民がたくさん犠牲になっています。

一方他者に親切にすること、他者の為になることを考えたり行動を起こすことで感謝をする、される関係が生まれます。人間は他者に親切にすることでオキシトニンというホルモンが分泌されて、親切をする人の体を強くしてくれるそうです。「情けは人のためならず」って本当なのです。来年は親切をする人と親切を受けた人で世界がいっぱいになって、誰もがオキシトニンで溢れる生活ができることを望みます。

今年もお世話になりました。くる年が皆様にとつて平和で良い年でありませうご祈念申し上げます。

社会福祉法人 静岡恵明学園

理事長 杉村 伸一

山の家 だより

静岡恵明学園
児童部



子どもの「しなやかさ」

「お姉さん鬼ごっこしようーお姉さん鬼ね」と、子ども達の元気な声掛けにより突如始まった鬼ごっこ。高校卒業後からの六年間、ほとんど運動してない私にとつて、坂道の鬼ごっこは、かなりハードで、すぐに息切れ&汗だく状態。参加の返事をする間もなく、突如として始まった遊びに、戸惑いを感じながらも、嬉しさと安堵感を覚えた。というのも、実はこの出来事、私が入職してから数日後のことであったのだ。当時の私は、大学院を修了したばかりで、子どもと関わる経験が乏しいこともあり、(子どもとどのように関わりを持てば良いのか・・・)等の不安があった。初対面の子と関わる時は、内心かな



り緊張していたが、子どもの方から声をかけ、輪の中に入れてくれたお陰で、緊張がかなりほぐれた。そんな子ども達の優しさに救われると共に、その「しなやかさ」には、感心させられた。

私は、「しなやかさ」は「柳に風」のような「強さ」でもあると思う。子ども達は今後、成長する中で、様々な困難さに出会うかもしれない。そんな時、「柳のようにしなやかであって欲しい」と願うと共に、子どもの気持ちを受けとめ、尊重できる大人でありたいと思う。私自身、社会人としても心理師としても、まだまだ経験が浅いため、周囲の人々の力を借りながら「子どもとともに」日々成長していきたい。

齋藤 亜美
(心理療法師担当職員)



さくら の家 だより

地域小規模
児童養護施設

二〇一八年十一月二十九日。この日もいつもと変わらない慌ただしい朝だった。子どもたちの朝食とお弁当を作り、車で送り出す。いつもと変わらない風景がそこにあった。そしてあるはずだった二日は、一本の電話によって崩れ去る。担当していた卒園生の計報だった。彼は番手のかかる、所謂問題児と言われる種類の児童だった。学校からの呼び出しは数知れず、友人の保

護者やコンビニ、スーパーへの謝罪、警察にも何度もお世話になってる。おかげさまで謝罪スキルは磨かれ、なぜか担当児童以外の謝罪対応もしていたほどである。これまでの話を聞くと、彼はどうしようもない問題児だと思われてしまうかもしれないが、そんなことはないのがある。彼の周りには不思議と人が集り、矛盾してしまいが人を思いやる気持ちも

人一倍ある。感情移入しやすく、「はじめてのおつかい」を観て泣くレベルである。徳光和夫や柴田理恵にもひげをとらない。そんな彼がいなくなった現実をしばらくは受け入れられなかった。実際その頃のこととはあまり記憶にない。頭が真っ白になるとはこの時のことを言うのだと思う。住み込みで生活している分、私にとつても家族同然。そのショックはかなり大きなものだった。そして何の因果か、今年度措置変更してきた児童を担当することになったのだが、彼の誕生日が十二月二十九日だったのである。ただの偶然なのだが、「頼むよ」と言われ

歩いてくるのも大変なことに気が付きました。子どもたちの学校の様子に耳を傾け、「頑張ったね」と褒めてあげたり、できなかつた事には「大丈夫。できるよになるよ」と励ましの言葉が溢れるようになってきました。子どもを見守り、励まし合つて行く中で、子どもたちの生活に変化を感じる日々が楽しくなってきました。何気ないしぐさや言葉に癒されたり、「一緒に遊ぼう」と子どもたちの温かい言葉に元気を貰っています。何度も子どもたちの言葉に



溝口 翔平(児童指導員)

はなみずき の家だより

地域小規模
児童養護施設

素敵なプレゼント

移り行く季節を肌で感じながら歩き続けて1年が経とうとしています。

「今日は、どんな子どもたちの姿に会えるのかな」と不安とワクワクする毎日です。

私が保育士として小学生の子どもたちと関わったことは初めての経験です。言葉がけにしても、生活面においても戸惑うことが多くありま



した。学校から帰宅した子どもたち全員に「おかわり」と迎えても返事は「宿題やらないからね」「どこかに行くから」と予想外の言葉で自分の気持ちを焦らせてしまいました。子どもたちも小学校までの道のりを

心が折れ、悩んだ日々もありました。先日K君からのプレゼントは忘れることが出来ない思い出です。チョークで私の顔を描き、「おたんじょうびおめでとう」と言葉添えてくれました。思わず涙が溢れ、甘えることが大好きなK君をぎゅっと抱っこしました。素敵なプレゼントと共に笑顔で「ありがとう」

古知 和子(保育士)



おたんじょうび
おめでとう

児童家庭支援センター「スマイル」だよ

里親とは？

「里親」という言葉を聞いたことがあっても、実際どのようなことをしているのか知らない人が多いかと思えます。自分が生まれた家庭で、愛情深く育てられるのが望ましいのですが、様々な理由により生活することが出来なくなつた子ども達があります。そのような子ども達を自分の家庭に迎え入れ、温かい愛情と正しい理解を持つて育ていく人が「里親」です。だからと言って里親が全てを担うわけではありません。様々な関係機関と連携し、社会と二丸となつて子どもの成長をサポートしていきます。



活動の仕方各家庭の状況によって、数日間お預かりして下さる方や、自立するまでの長期間生活を共にして下さる方など様々です。週末などを利用して月に一回子どもと外出や外泊をしてくださる方もいらつしやいます。子どもたちのために何



かできな事はないかと子どもたちに心を寄せて下さる、そのような里親さんと共に仕事をさせていただく日々。お子さんの成長を一緒に喜び、悩み、気持ちを分かち合う…。子どもたちにも里親さんにも彩り豊かな人生を楽しんでいただくため、これからの支援に努めたいと思ひます。

わかばマーク

一昨年の八月まで乳児院に勤務し、育児休暇が明け、児童家庭支援センター

育児休暇を経て、以前とは異なる視点から仕事に取り組むことができるようになりまし。子育て中のお母さん達の話に共感することが多く、同じ母親として考えさせられることはあります。さらに、週に度は乳児院にいる子どもたちと過ごす時間を作っています。子どもたちと関係を作り、面会に立ち会うことで子どもたちが乳児院を退所してからも親と子に関わり続けることができます。

支えるということ

児童家庭支援センターでは食糧支援として、子育て中の家庭や里親宅や施設から自立していった若者たちにお米等食料品を配布しています。みんなの若者も自分なりに工夫して自炊や節約をしています。受け取る



「助かります」と嬉ししい言葉聞きます。九月に食糧支援の荷物を送った時のことです。送る時に「今から荷物を送るね」とLINEを入れました。するとその晩遅くに「仕事辞めて引越した」との返信。「荷物もう送ったよ」「どうしたの?」と返すと「連絡しなくてごめんささい」「違う場所アパートを借りてホ



テルの清掃の仕事をしてい」と。何の相談もなく突然遠い場所へ引越していった。過程では沢山悩んだんだらうなと思う。でも自分で克服して新しい生活を始めていたこと、連絡をしながら素直に謝れたこと、この子の成長を感じました。「遠く離れてしまったけれどいつも応援しているからがんばってね」と送ると「ありがどうございませう」と。短いやり取りの中で「ありがどう」「ごめんさい」と大事な言葉を聞けました。

ボランティア file no.7



今夏の恵明七夕まつりに三島市民吹奏楽団のみなさんが久しぶりに参加してくださり、開会前の時間やセレモニー内の演奏や笹立ての合図としてのファンファーレなど演奏披露していただいた。「お祭りには鳴り物が無いとね。」と楽団の方が言われるように、楽団のみなさんの演奏により、お祭りが盛り上がる。セレモニーで理事長から「久しぶりに市民吹奏楽団の方々の演奏が鳴り響いて、学園の七夕まつりが戻ってきた」と挨拶にあつたが、学園の七夕まつりには吹奏楽団のみなさんの演奏は欠かせないものとなっている。

学園に三島市民吹奏楽団のみなさんが学園の七夕まつりに協力してくださるようになったのは、昭和六十二年の恵明七夕まつりからで、当時学園の子どもたちが通学している坂小学校の教頭先生で楽団の代表をさ

三島市民吹奏楽団さん



れていた吉田典嘉先生のお陰で始まった。以来楽団は学園とのつながりを継続して下さり、七夕まつりを盛り上げ続けて下さっている。また楽団の定期演奏会(三島市民文化会館)に子どもたちが招待を受け、鑑賞させていただいたこともあり思い深い。これからも七夕まつりのパートナーとして、演奏会招待など関わりを続けていってくださるとのこと。大変ありがたい。これからもよろしくお願い致します。

赤ちゃんセンター



乳児部

半年を振り返って

就職してから半年が経ちました。研修期間から数カ月間、なかなか環境に慣れず、緊張や不安を抱えながら過ごしていた日々を振り返ると、月日の流れのはやさを実感します。同期のように接してくれる二つ上の先輩や、気にかけて下さる優しいお姉さん方に恵まれ、そして何より、様々な表情を見せてくれる子どもたちに癒され、毎日があつという間に過ぎていきます。子どもたちと過ごす期間もまだ半年ですが、私が出勤すると私の名前を呼びながら笑顔でかけ寄ってきてくれます。散歩中にバスとすれ違った時、「あすかちゃんと一緒にバス



乗りたいな」と言ってくれた子どもたちの言葉があり、とても嬉しい気持ちになります。子どもたちが私に向けてくれる笑顔や言葉は、私の元気の源です。しかしその一方で、子どもたちとの関わり方に悩むことも少なくありません。何に怒っているのか、どうして泣いているのか原因が分からなかったり、子どもたちに注意を促す場面でも自分の言葉が届かなかつたり等、悩みは様々です。新人の今だからこそ見せ

成長スピード

乳児部に勤務してから一年半が経ち、四月から小さい子組から大きい子組に上がりました。そして、私と一緒にR君とS君が大きい子組に上がりました。

小さい子組にいた時は長い距離歩けず、お散歩に出発してすぐに帰ることが多々あった

S君は年半前、初めてミルクをあげた赤ちゃんのうちの一入です。ある日のこと、みんなでお喋りしていると、「えんえんした。えんちようせんせいきた」と昨日の出来事を思い出して、お話ししてくれました。過去のことを思い出して自分の言葉で話す姿にびっ



R君。大きい子組のみんなとお散歩に行くと、長い距離を歩くみんなについていき、長い階段もスムーズに登っていきます。少し前まではベビーカーに乗っていたR君が、大きい子組さんと一緒に歩いている姿に驚きました。



くりしました。また、ブロックで遊んでいると、一人黙々と同じ形のブロックを重ね、S君の身長と同じくらい長い棒を作っていました。年上のお友だちが作っているのを見て遊び方を学んだのでしよう。子どもたちが日々、たくさんのお話を学び、吸収して成長しているんだと実感しました。

できることが増えたり、新しい姿を発見したりと日々の生活の中で、子どもたちの成長の場面に携わることができ、とても嬉しいです。好きなものやできること、成長のスピードはそれぞれですが、その一人ひとり違った成長を見逃さないよう、子どもたちに寄り添い、見守っていきたいです。

渡邊 愛衣(保育士)

パティスリー乳児部

乳児部では、その月に誕生日を迎える子をケーキを食べてお祝いします。



そのケーキはなんと、乳児のお姉さんが作っています。台所のスペースをお借りして、スポンジケーキにクリームをベタベタ：作るのも見るのもワクワクします。新型コロナウイルスの影響もあり、台所のお姉さんにもお願いをした時もありました。お店のようなケーキに、大人も子どもも目を輝かせたのを覚えています。

以前、何度か続けてケーキ作りをさせて頂いた時です。大きい子組の子に色や形のリクエストを聞いてみると、いろいろな返事が返ってきました。決められずに毎回違う動物を言うたり、バッチリ決まっていたり。やがて他の子も集まってきたり、何か月も先のリクエストが来ることもありま

す。「この前、うさぎさんの



「上手に出来るかな？」と考えたりします。まだ小さくて、乳児部のこととは忘れてしまうかもしれませんが、少しでも嬉しさ、美味しさ、楽しさが思い出せるように、一生懸命ケーキを作りたいと思います。

杉山 繪(保育士)

恵 明 保 育 園

子どもたちの成長

私は今年〇歳児クラスを担当させていただいています。四月は大好きなママやパパと離れたくないと毎日泣いていた子どもたちがニコニコと可愛い笑顔で登園してきてくれるようになりました。成長を感じるとともに、子どもの大事な今という時期を日々、一緒に過ごすことができ、とても嬉しく思います。〇歳児さんは本当に毎日が感動の日々です。昨日までできなかったことが急にできるようになったり、段々と話せる言葉が増えたりと、その瞬間を目にするのができる毎日がとても嬉しいです。子どもたちのおかげで私自身楽しく一日一日を過ごしていけると思っています。



私は今年保育士として働かせていただき五年目になります。昨年は初めての育児を経験し、親として子どもを預ける立場を経験しています。今まで子どもさんを保育させていただくということに対して真剣に取り組んできました。親として子どもを預ける側になってみるとなかなか心配事はつきません。子どもが保育園で保育者の方たちにどう関わっているのか気になってしまします。だからこそ私は子どもさん一人一人と真剣に丁寧に関わることはもちろん、親御さんにも毎日ニコニコ楽しく保育園に来て、安心して子どもを預けることができる保育士になりたいと考えています。我が子とともに私も毎日成長して、より一層理想の保育士に近づけるように努力したいと思えます。

青木 玲奈(保育士)

安心してできる場所

時の流れは早いもので春の暖かかった気候も寒さを感じる時期になりました。今年度は二歳児クラスを担当させていただいています。四月当初に出会う子どもたちの姿を思い浮かべると、もう懐かしいと思えるほど子どもたちは今、成長した姿を見えています。

去年私も人生初めての「出産」という素敵な経験をしました。今年の春からは、今見ている子どもたちと同じように娘も保育園に通うようになり、育児との両立をしながら楽しい毎日を送っています。復帰をし、半年が経ち、母として保育者として子どもへの接し方を改めて考え直すことができました。親に見せる顔、保育者に見せる顔、きつと違いがあります。娘を保育園に送り出すと、涙を流して私にアピールする事がありますが、迎えの際にはとびつきの笑顔でかきよって来てくれます。

子どもにとって親は安心できる大きな存在。同じようにはできないけれど不安を抱きながらも、保育園へ頑張ってきてくれる子どもの振り所でありたいです。春には見せてくれたような素の自分の姿を今では様々な表現方法で出してくれるようになった子どもたち。一番近くで寄り添う事ができるからこそ気づく子どもたちの小さな成長を大切にしていきたいです。保育園では保育者として、家では親として、子どもの心の振り所であり、一番の理解者として、安心できる場所でありたいと思えます。

天野 千尋(保育士)



小さな成長

て、恵明保育園を訪問した時、園長先生が「〇歳児の保育園の方が、子どもの成長をたくさん感じられると思うのですが」といようなお話をしたことがあります。その時園長先生は「子どもたちは短い間でもたくさん成長する。その瞬間に携われるのは素晴らしいこと



「とお話してくださいました。今、そのことをすごく実感しています。慌ただしく過ぎていく日々の中で、子どもたちの小さな成長や、できたに保育士が気づく瞬間があります。その瞬間を子どもと共有できること。その瞬間の笑顔を、私達保育士に向けてくれること。こんなに素敵なことが毎日溢れています。子どもたちの輝く笑顔とそれを見つめる目を大切にしていきたいと思えます。」

土屋 結乃(保育士)



私は今年度、二歳児クラスを担当させて頂いています。昨年度、一歳児クラスで二年間共に過ごした子どもたちと一緒に進級し、新しいお友達も仲間入りして、明るく賑やかなクラスで毎日楽しくお仕事させて頂いています。一歳児クラスの時の姿つい最近のことに、今では「おねーさん」とはつきり呼んでくれるようになったり、おトイレでオシッコができた、一人でクツが履けたり、いつの間にかこんなにも成長していたんだ、と感じています。私が就職活動をしてい



もり 宮さんの杜通信

2023. 11

気持ちのいい秋晴れの季節になりました。暖かい服装で秋のお散歩をしてみましょう。色んな形の落ち葉やどんぐりなどを探してみるのも楽しいですね。また涼しい秋の夜には読書もおすすめです。親子で楽しい読書の時間をつくってみてはいかがでしょうか。

今月は「おやこでおいもほり」や「おやこで七五三」など楽しいイベントがたくさんあります。どうぞお気軽にご参加ください。

* ちょこっとコラム ～ 七五三 ～ *

11月15日は七五三をお祝いする日です。子どもたちがこれまで元気に育ったことへの感謝の気持ちと、これから健康に大きくなりますようにと願いを込めて3歳、5歳、7歳の節目の年にお祝いします。

また千歳船には「細く、長く生きられますように」という願いも込められています。日々成長している子どもたち。これからどんどん大きく、元気に育ちますように。



● 三島市大宮町2丁目2-11 tel.055-991-0010



じゃじゃまる通信

2023.9



残暑厳しい日が続きます。みなさん、この夏はいかが過ごされましたか？これから少しずつ秋の気配が感じられ、過ごしやすくなってきます。お出掛けしやすい季節になりますので、ご家族でからだを動かしたりお散歩をしたり、楽しく一緒に過ごす時間を持ってみてはいかがでしょうか。

ちょこっとコラム



～トイレトレーニング～

薄着で着脱しやすいこの時期は、トイレトレーニングを進めるチャンスでもあります。また、身の回りのことに興味を持ち始め、自分でやろうという気持ちが出てくるときがチャンスです。子どもたちが抵抗なくできるように声かけをしたり環境を整えたり、焦らずに進めていくことが大切です。

● 恵明キッズフヨウビレッジ内
三島市芙蓉台2-3-17 tel.055-987-7922



フリップパー通信



令和5年9月

残暑が厳しく、まだまだ暑さが続いています。熱中症対策をしっかりと行い、十分な睡眠や食事、生活のリズムを整えていきましょう。

今月はカラーボール遊びや製作を予定しています。お楽しみに！

* ちょこっとコラム ... 9月1日は「防災の日」です。



9月1日は防災の日。ご家庭の防災グッズは揃っていますか？用意がない方はこの機会に揃えておくのも良いでしょう。また揃っていても、食糧、飲料水の期限や懐中電灯の電池残量のチェックなど、いざという時に無かったり使えないのではせっかくの準備も台無しです。ご家族で確認しあいながら、防災意識を高めていけるといいですね！

● 恵明キッズサクラビレッジ内
三島市文教町2-28-6 tel.055-943-6878

子育て支援センター

それぞれの子育て支援センターの「子育て支援センターだより」を紹介します。地域の子育て親子さんたちが多数訪れ、楽しく過ごしています。今年度も楽しく利用できるよう、イベント等用意し、スタッフ一同お待ちしております。

利用日:月曜日～金曜日

10:00～16:00

子育て相談、園庭開放も随時



ぽこ通信

2023.10

「あっ！ひこうきも！」子どもたちの声に空を見上げると、まっすぐにのびていく飛行機雲。「あそこはもくもくもだよ！」うろこ雲が青い空をバックにすてきな模様を描いています。秋ならではの空模様、親子でなかよく楽しみたいですね。

今月の「ぽこ」は、ハロウィンパーティも企画しています。仮装してきてOKです。みんなで楽しく遊びましょう！



☆ ちょこっとコラム ☆

～秋の虫のコーラス隊～

お子さんと草むらで、そっと耳を澄ましてみましょう。秋に鳴く虫の音がやさしく聞こえてきますよ。「チンチロリン」はまつむし、「リーンリーン」はすすむし、「ガチャガチャ」はくつむし、「コロコロリン」はこおろぎ。秋のすてきな音楽会、親子でゆったり楽しみたいですね。



● 恵明キッズコスモスビレッジ内
三島市谷田1629-38 tel.055-973-7778

ローズ通信



2023. 9

夏の厳しい暑さがようやく一段落して、秋の風を感じる季節になりました。ローズビレッジの子どもたちは運動会に向けて元気いっぱい練習を始めています。今月の支援センターでは、親子でリトミックや感統遊びを予定しています。ぜひ、親子で遊びに来て下さい。

☆ ちょこっとコラム ☆ ～ 味覚 ～

味覚には、「甘味」「酸味」「苦味」「塩味」「うま味」の5つがあります。これらは舌の発達に伴い、少しずつ色々な味覚を覚えていきます。苦味や酸味は苦手なお子さんが多いですが、成長と共に少しずつ色々な味を受け入れるようになるそうです。これから秋の美味しい旬の食べ物を食べて親子で楽しく食卓を囲むことができますといいですね。



● 恵明キッズローズビレッジ内
駿東郡清水町堂庭89-16 tel.055-943-5519

恵明キッズ

フヨウ
ビレッジ



おはよう
ございます

今年度私は、玄関の先生をしていきます。朝は子どもたちを受け入れ、日中は園の環境設定、行事の準備、夕方は迎えの対応をしています。

春は入園や進級、そして環境も変わりお家の方と離れづらくて泣いてしまう子、朝のあいさつをするのが恥ずかしくなってしまう顔を背けてしまう子など様々でした。暑い夏が過ぎ、季節は秋に変わり、登園の



様子は春の頃よりがらりと変わりました。抱っこで登園していた赤ちゃんがくつを履いて歩いて来たり、先生たちより大きな声で元気に「おはようございませう」とあいさつをしてくれたり・・・朝の様子で日々子どもたちの成長を感じます。

行事の時は主に子どもたちや担任の先生たちのサポートをしています。主任と連携をとりながらこの時が必要か、クラスの動きに子どもたちはどう反応しているか、担任の先生は次に何をしたいか、色々なことを感じながら動いています。自分から担任をしていた時にも色々な先生たちに助けて頂いてクラスをまとめてきました。その時の経験を活かし、今のポジションだからできる援助を全力でしているつもりです。

玄関の先生はお家の方たちともたくさんお話をします。夕方お子さんの今日の様子などを伝えて、「こんなことがあつたんだ」「○○○ができてきたようになったんだ」と一緒に子どもの成長を喜ぶことがあると、私もうれしい気持ちになります。子どもたち、先生たち、お家の方々とたくさん関わる玄関の先生として今後もがんばっていききたいと思っています。

藤村 藍(副主任)

毎日の食事の
大切さ

令和五年度が始まり、半年が経ちました。つくし組さんは離乳食から完了食に進み、たくさんの食材が食べられるお友だちがほとんどになりました。たんぼ組さんも苦手なランチやおやつを泣かずに食べられるようになり、ランチの量も増えてきました。

五月より新型コロナウイルスが五類感染症に移行し、感染対策が少しずつ緩和されました。ラウンジにおいてもパーティションが外され、賑やかなランチ・おやつ風景が戻ってきました。四月から広いラウンジですみれ組さんはゆり、ふよう組さん



んと一緒にランチとおやつを食べる生活にすっかり慣れました。平成二十七年から始まったふよう組さんの自分の茶碗・箸置きに加え、すみれ、ゆり組さんも自作の箸置きを使い食事をしています。世界にひとつしかない茶碗と箸置きを大切に使用していきたいと思えます。

十月からすみれ組さんはパンの量も増え、お箸を使う練習が始まりました。は四歳頃がおすすめだそうです。ただ発育には個人差があります。上手に食べられない日や疲れている時に食事には飽きている時には、スプーンやフォークを使いながら進めていきたいと思えます。まずは食事を楽しむことを第一に考えて、自分の意志でお箸に挑戦できるように励ましていきます。

森 紀子(栄養士)



サイバードリーム
(英語あそび)

今年度サイバードリームを担当させて頂いています。初めは「私が子どもたちに英語を教えらるのだろうか」と不安を感じました。ですが、いざサイバードリームを始めると、子どもたちはとても楽しんで取り組み、驚くほどの吸収力で覚えていき、私の不安は吹き飛んでしまいました。そんな子どもたちを見ていて、幼児英語は正しく理解することよりも、まずは楽しく英語に親しむことが大切なんだと思うようになりました。

夏野菜クッキングでカレーづくりをしたふよう組さんは「僕はキャロットを切ったよ」など色々な野菜を英語で教えてくれました。ゆり組さんやすみれ組さんも「私はママとカーで来たんだよ」「僕はバイシクルに乗れるよ」と一緒に覚えた英語を使い、「一生懸命に話してくれる様子がとても嬉しいですよ。たんぼ組のお友達もグーチョキパー達もグーチョキパーの手遊び歌を英語で口ずさんでいたり、子どもたちの順応



性は素晴らしいです!

普段からお誕生日会などで元気に素敵な踊りを披露してくれている子どもたちは、英語のダンスもとても上手です。大きな声で歌い楽しく踊っている姿を見ると、英語の歌もあつという間に覚えるだろうと頼もしく感じます。これからは英語を身近に感じ、楽しく親しみをもって取り組めるように、私自身も楽しんでいきたいと思っています。

サイバードリームを通して子どもたちが英語を好きになってくれると嬉しいです。
宮川 夕子(保育士)

恵明キッズ コスモス ビレッズ

何でもやってみよう!

昨年、「かつこいいな」
「早くコスモス組さんにな
りたい」と憧れの目で年長
組さんを見ていた子ども
たち。そんな中で私
も子ど

か?と私が考えすぎてし
まうこともありましたが、「何それ!楽しそう!!
」「はやくやりたい!今日
も練習する?」と子ども
たちの何でもやってみよう
とするポジティブな気持
ちに、みんなならできる

もたちと一緒に初
めての年長組担
任となり、日々の
成長や喜びを感
じ合うち、お祭り
や年長組だけの
行事:と目まぐ
るしく過ぎ、もう
すでに半年が経
ちました。
九月に行われ
た運動会では競
技の練習だけで
はなく、今年は園
の代表として宣
誓係やプログラム
紹介係など他に
も様々やること
がありました。や
ることが多くなる
のと同時にどん
どん過ぎていく日
々。子どもたちは
こんなにできるの



ぞ!とこちらの挑戦する
意欲が掻き立てられてい
きました。
また、ゆり組の時より吸
収する力が強くなりす
にできるようになります
が、間違えてしまう事も
まだまだあります。その
な時には「もう一回やってみ
よう」とお友だちを思いや
る気持ちも「層強くなり、
クラス全体の団結力が今
まで以上に強くなったよ
うに感じられます。
これから、クリスマス会、
豊年太鼓、おたのしみ会と
後半に大きな行事が続
きますが、子どもたちの「何
でもやってみよう!」とい
う言葉を基に、三月まで
みんなで突き進んでいき
たいと思います。
そして立派に卒園式を
迎えたいと思います。
藤田 みなみ(保育士)



自分でできるもん!

日に日に風が冷たくな
り、富士山にも雪化粧が
見られはじめました。今年
度も早いもので半年が過
ぎ、たくさんの成長を感じ
ることが出来ました。
たんぼ組のお友だち
は、自分で出来ることが増
え、ひとりひとりの表情に
自信が見えます。「合っ
てる?」と靴の左右を確認
し、上手に履くことができ
ると「もう履けちゃった!」
と得意気に見せてくれま
す。お着替えでは裏返しに
なつてしまつても「こうか
な?」と自分たちで生懸
命直し、思い思いに畳んで
着替える姿も見られてき
ました。「お手伝いしよう
か?」と声をかけても「自
分



分
で
で
き
る
も
ん!

分
で
で
き
る
も
ん!

こども園の
かんじさん

私が恵明学園に仲間入
りをして、早くも三年が
経とうとしています。四年
前まで我ががお世話に
なつていた先生方と、今自
分と一緒に働いている事に、
不思議さと嬉しさを感じ
ています。
看護師としてこども園
に勤め、初めてだらけの
日々にとまどつていた事も
ありましたが、今は無邪
気な子どもたちの笑顔に
パワーをもらいながら、楽
しい日々を過ごしていま
す。それと同時に、「みんな
の笑顔を守りたい」という
使命感を抱いて、私にでき
る事は何か模索中です。
そのついでに、園内で子ども
とすれ違う時に「昨日のケガ
はどう?」「つ
らいところは
ない?」「元
気になつて嬉
しいよ」と、毎
日なるべく多
くの子どもに
声をかけ続け
てきました。
するとある
日「この先生
は、かんじ
さんなんだよ
」と言つても
らいました。
この事は私に

宮澤 里架
(保育士)



とつて今でも忘れられない
大切な思い出です。
昨今、情勢が変わり、恵
明学園でも行事に賑わい
を取り戻しました。子ども
たちも行事に取り組み
姿が、今まで以上にパワ
フルになっています。そんな
姿を影ながら見守っていま
す。その一方で、子どもたち
の健康を守るように、静
岡恵明学園内では様々な
講習会を行います。先輩
看護師の先生と共に
講習会は、私自身にも多
くの学びがありました。そ
れと同時に今後も自己研
鑽に努めなければと、身の
引き締まる思いでいっばい
です。看護師がいる事が
静岡恵明学園こども園グ
ループの魅力の一つになり
ますように。
花房 真由美(看護師)

恵明コスモス児童センター

楽しかった児童センターの夏休み！

「ミーン、ミンミンミーン」セミの鳴き声が聞こえる季節がやってきました。子どもたちが楽しみにしていた夏休みです！

恵明コスモス児童クラブでは、この夏休みを子どもたちにたくさん楽しんで満喫してもらえるよういろいろな行事を計画しました。毎日何かしらの行事を計画していましたが、その中でも子どもたちから「楽しかった!」という声が多かった行事をいくつか紹介します。

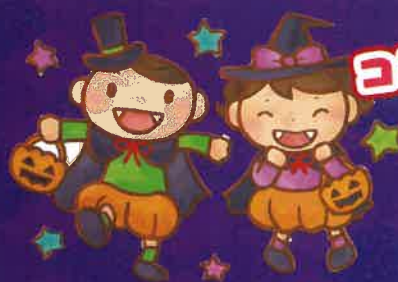
まずは、「へびジャンケン」です。単純なゲームですが、高学年の子に作ってもらった道が随分と長かったのでなかなか勝負がつかずそれがかえって白熱してものすごく盛り上がりました。次は、ボーリングですが、これに関しては毎年の恒例でグループ対抗戦でチーム一丸となりとても盛り上がります。スイカ割りも楽しく、子どもたちが思い切り大きい口をあけてスイカを頬張る姿は頼もしく感じました。

また、今年の夏ならではの押し行事としてお茶会、夏祭りを行いました。コロナが5類となり、お茶会は4年ぶりでした。初めて体験する子どもたちが殆どでしたが、良い体験が出来ました。

夏祭りは、基本的に子どもたちが主体的に考えてどんなお店を出すかということから準備までを何日間かけて行いました。当日は店員さん係とお客さん係の2グループに分け、それぞれが楽しむことができました。また、お店屋さんにごども園の子どもたちも招待して交流の場も設けることができました。

8月の終わりには子どもたちからの「夏休み、楽しかった!」の声に児童センター職員としても満足感を感じることができました。安全に留意し、今後もみんなの笑顔が見られる居場所としていられるよう努力していきたいと思ひます。

山口 彩奈 (児童指導員)



コスモスの丘は「ハロウィン」色

10月21日(土)にコスモスの丘にて秋桜祭りが行われました。当日は、ハロウィンの基本である収穫祭ということでさつまいもやジャガイモ等を材料にしたお菓子やゲームコーナーなど、楽しい工夫もあり、また、仮装の園児も沢山いて楽しい1日を過ごすことができました。中学生、高校生のボランティアのお兄さん、お姉さんたちありがとうございました！

これまでみんなで集まる時間や規模が制限されていましたが、近ごろは、こども同士、大人も含めてみんなの表情が変わってきたように思ひます。マスクをしている人もいますが、マスクを外した笑顔も沢山見られます。今、世界では逃げ場のない危険にさらされている地域の子もたくさんいます。その様子を目の当たりにし、胸が締め付けられる思いでたまらない今日この頃です。この日本が平和であることに心から感謝せざるを得ません。

恵明キッズ サクラ ビレッジ



大切にしたいこと

十二年前の四月一日、サクラビレッジが開園し入園式が行われました。二十五名の小さな新入園児を迎え、私は不安を抱えながらつくし組の保育室に入っ



ていきました。ふと、園庭に見えた満開の桜の木。見事な光景が私の気持ちを期待に変えてくれたことを、鮮明に覚えていてます。その後、つくし組の担任を五年間務めた後、私事

関に入ってくる時に、笑顔で元気よく「おはようございます」と言い合える、そんなことも園であつてほしいと願っています。これからは私ができることを探しながら、日々頑張っていこうと思います。

矢後 光江(保育士)

笑顔とともに

入園当初は泣き声が響いていた保育室も今では子どもたちの笑い声やおしゃべりをする声に溢れ、賑やかに楽しく過ごしています。子どもたちの日々の成長はととも速く、「せんせい」「アンパンマン」と単語を話すようになり、お歌を覚えて一緒に歌うことができるようになりました。赤ちゃんたち



で嬉しそうに歩いたり、プロックで遊んだりしています。玩具の取り合いもしますが、保育者が見守りながら時には仲に入りつつ仲良く過ごせています。毎日の子どもたちの笑顔や元気に私たちが癒され、パワーをもらっています。子どもたち

に負けないように笑顔を抱やさず関わっていくと思えます。これからも子どもたちが笑顔でのびのびと成長できるように二人ひとりと同じような経験を通して学びを増やしていきたいように努力したいと思います。

中村 優子(保育士)

楽しいランチ

季節は巡って「実りの秋」を迎えました。春、夏を経た、子どもたちも一回り大きく成長したように見える今日この頃です。

私は、栄養士として今年度フヨウビレッジから十年ぶりにサクラビレッジに異動してきました。久しぶりの場所に凄く緊張しましたが、子どもたちが「先生名前なに?」「先生どこから来たの?」など気さくに喋りかけてくれたのですぐに慣れる事ができました。

新年

度から半年が経ち、食事からも成長を感じられる日々です。つくし組は、離乳食だった子が完了食になり自分でスプーンを使って食べる姿、すみれ組は、箸を使ってランチを食べるようになってきました。まだざこちなく箸を使っていますが、「今日はフォークを使わないで食べれたよ」など少しずつ上達しています。ランチやおやつ



の時間でも成長を見守りたいと思います。食事は、生きていく上でとても

大切なことです。こども園グループでは、食事を楽しく食べてもらえるように行事食を大切にしています。毎月のお誕生日会では、旬のフルーツを使用しています。おやつは手作りケーキでお誕生日をお祝いしています。春はこいのぼりゼリー、夏は七夕ランチやさくら組が作る夏野菜カレーなどわくわくする献立があります。

これからハロウィン、クリスマス、お正月と楽しい行事食があります。子どもたちに喜んでもらえるように安全でおいしいランチやおやつを提供していきたいと思えます。

谷 紗也香(栄養士)



恵明キッズ

ローズ
ビレッズ



楽しかった運動会

今年度も半ばが過ぎ、お友だちとの仲も深まり各クラスまとまりが出てきました。

今年度は新型コロナウイルス感染症が五類に移行し、四園合同のなかよしうんどうかいが四年ぶりに行われました。子どもたちは本番に向け、朝の会では元気にうんどうかいのうたを歌ったり、暑さを避けながら、種目の練習に励んでいました。

手に繋がるようになってきました。

年長のばら組は二人ひとりの役割があり、宣誓や体操のお手本など、練習を重ねながら自信をつけ、本番では堂々とした姿を見ることができました。竹馬も四月から毎日コツコツと練習し、足を豆をつくりながら「今日は○歩あるけたよ」とニコニコしながら誇らしげに話す姿が心に残っています。

本番当日は雨模様から始まった開会式で心配さされましたが、みんなの元気な声で雨を吹き飛ばし、それぞれのクラスが練習の



成果を存分に発揮した運動会になりました。

一つの事をいっしょの仲間と協力してやりきる達成感と、のびのびと身体を動かす気持ちの良さを体験しながら、これからも心身ともに成長していく姿を応援していきたいと思えます。

鈴木 和磨(保育士)

猛暑をのりこえて

記録的猛暑「熱中症警戒アラート」この夏、何度聞いたことでしょうか。夏の陽射しをいっばいに浴びて、汗をいっばいかきながら、園庭を駆け巡る子どもたち。そんな例年の夏のイメージからかけ離れた夏を今年度は経験しました。子どもたちが楽しみにしているプールや水遊びも気温とにらめっこをしなければならぬ毎日が続きました。朝、水を張ったプールが

一時間もすると水温が三十度を超えている時もあり、危険な暑さであること思い知らされました。だからといってクーラーを効かせた室内で遊ぶだけでは季節を感じられませんか。テントを張り直射日光を遮ったり、短時間でも楽しめる水遊びグッズを先生たちで作成したりと、安全で楽しく水遊びが出来る様に、夏を感じる遊びが出来ると工夫する毎日でした。つくし組さんは水に親しむ事。たんぼ組さんは、お約束を守って楽しむ事を水遊びから学びます。キラキラ光る水面を見てニコニコ笑顔がはじけまします。そして水の気持ち良さを感じ身体を伸びやかに動かす心地良さを知ります。そんな猛暑を乗り越え



回り成長した子どもたち。秋になり、つくし組さんはお友だちの名前を覚え始め「一緒に遊ぶ事」が増えてきました。たんぼ組さんは「洋服の着脱」が水遊びの活動を終え、とても上手になりました。何気ない毎日の繰り返しですが出来る事が日々増えていく子どもたち。個人差もありますが個々のペースに合わせて寄り添い、園生活が安全に楽しいものになる様、そして子どもたちの健康を第一に考えていきたいと思えます。

加藤 寿恵(看護師)

しみずこまつり

今年度はコロナ禍も収まり、子育て支援センターにも以前のように少しづつ足を運んでくれる親子が増えました。この状況をふまえ、清水町民間保育園内の子育て支援センター「しみずこまつり」が三年ぶりに開催されることが決定しました。

以前と変わった点は、土曜開催をしていたのが平日にやってみようということになり、支援センターの先生が中心になって行うことになりました。

前半は、手作りおもちゃ等の各園で持ち寄った物の自由遊びで後半は、音楽ユニット「ナッツ」さんのリズムあそびを楽しんでもらいました。音楽あそびでは、親子のふれ合いあそびや、軽快なピアノに合わせて会場いっばいに身体を動かしてあそびました。皆様のご協力のおかげで、ケガもなく無事に終わることができました。

今回のイベントを通して、各園の先生方との交流も深めることができました。これから子育て支援センター「ローズ」でも、来てくれた親子が笑顔になるように、楽しい企画をたくさん行っていきたいと思えます。

福岡 和美

(子育て支援員)



こども園グループ 合同運動会

4年ぶり開催

9月23日に駿河平グランドをお借りして恵明キッズこども園グループ4園の3・4・5歳児合同運動会が行われました。コロナ禍や悪天候のため、4年ぶりの開催になりました。

当日は雨に降られた時間もありましたが、リアルタイムでの雨雲情報も参考に会場の皆さんのご協力のもと、元気いっぱいの運動会になりました。



各園ごとに女性10人男性10人の保護者チームで対抗し、今年のみごと恵明キッズフヨウビレッジチームが優勝しました。

保護者対抗綱引き



三島市民間社会福祉施設 永年勤続表彰

表彰

- 恵明キッズフヨウビレッジ 藤村藍(副主任)
土屋由香(保育士)
- 恵明キッズコスモスビレッジ 杉村太地(園長)
杉本嘉美(栄養士)
- 恵明キッズサクラビレッジ 佐藤貴子(主任)

おめでとうございます
ございます



全日本男子バレーボールチーム パリオリンピック出場決定

おめでとうございます！
こども園みんなで応援しています！！

祝